オペレーションマニュアル

Basic FX Suite

JA

steinberg

目次

Basic FX Suiteについて 2
Sweet Spot Morphing Channel Strip 2
REV-X 2
Guitar Amp Classics.....2
VSTプラグインの開き方 3
インスペクター画面から.....3
MixConsoleから 3
エフェクトの選択.....3
ソフトウェアについて..... 4
Sweet Spot Morphing Channel Strip 4
REV-X 5
Guitar Amp Classics.....6

お知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- ソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- Apple、Mac、Macintosh、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- SteinbergおよびCubaseは、Steinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

Basic FX Suiteについて

Basic FX Suiteは、ヤマハが長年培ってきたモデリング技術を応用して開発されたVST3プラグインソフトウェア群です。「Sweet Spot Morphing Channel Strip」、「REV-X」、「Guitar Amp Classics」の3つのソフトウェアで構成されています。

Basic FX Suiteをインストールすると、次の3つのソフトウェアがインストールされます。

Sweet Spot Morphing Channel Strip

コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたエフェクトです。

REV-X

ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。

Guitar Amp Classics

ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプエフェクトです。

NOTE

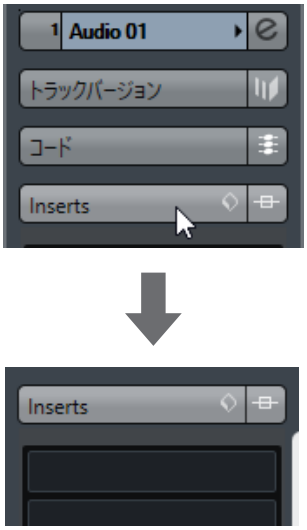
iPadなどのiOS機器では、ここで説明しているソフトウェアは動作しません。

VSTプラグインの開き方

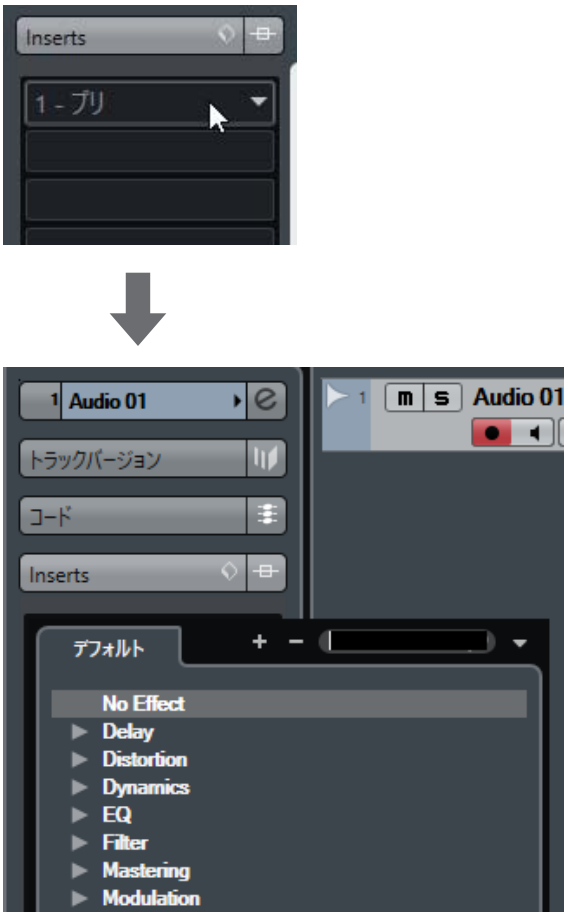
ここでは、CubaseでのVSTプラグインの開き方を２つ紹介します。VSTプラグインの開き方は、DAWソフトウェアによって異なります。

インスペクター画面から

1. **プロジェクト画面の左側のインスペクターにある[Inserts]をクリックして、インサートスロットを表示します。**



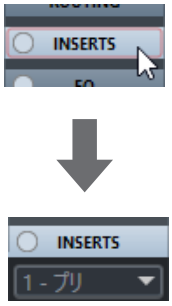
2. **インサートスロットをクリックし、エフェクトセレクターを表示します。**



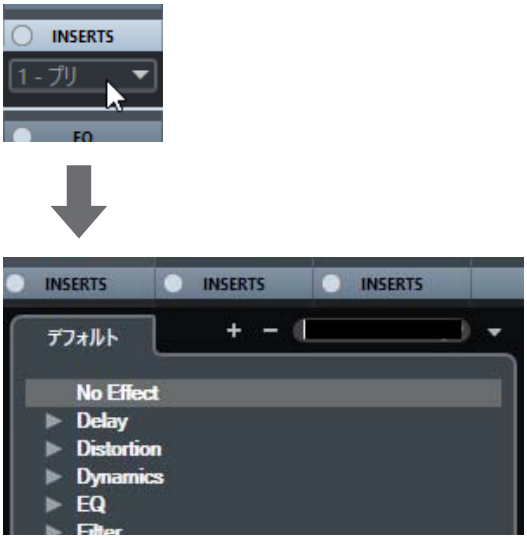
MixConsoleから

1. **[スタジオ] → [MixConsole]でMixConsole画面を表示します。**

2. **[INSERTS]をクリックし、インサートスロットを表示します。**



3. **インサートスロットをクリックして、エフェクトセレクターを表示します。**



エフェクトの選択

エフェクトセレクターからエフェクトを選択します。エフェクトはサブメニューに分類されています。カテゴリーは以下のとおりです。

エフェクト	カテゴリー
Sweet Spot Morphing Channel Strip	Dynamics
REV-X	Reverb
Guitar Amp Classics	Distortion

Cubaseシリーズの詳しい使い方は、Cubaseシリーズのメニュー [ヘルプ]から開くPDF形式のマニュアルをお読みください。

ソフトウェアについて

Sweet Spot Morphing Channel Strip

概要

Sweet Spot Morphing Channel Strip (Channel Strip)とは、コンプレッサーとイコライザーを組み合わせたプロセッサーです。プロフェッショナルエンジニアのノウハウが凝縮されたセッティングがあらかじめ用意されており、簡単な操作でプロ並みの効果を得ることができます。

ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、本体に搭載されているDSPエフェクトのChannel Stripは使用できません。

名前と機能

コンプレッサーとイコライザー共通

❶ モーフ
Sweet Spot Dataのパラメーターを調節します。
このノブをまわすと、ノブのまわりの5つの点それぞれに保存されたコンプレッサーとイコライザーの設定(Sweet Spot Data)を、同時に動かすことができます。2点の中間にノブを合わせた場合、コンプレッサーとイコライザーの設定は、2点の中間の設定になります。

❷ Sweet Spot Data
Sweet Spot Dataを選びます。

❸ TOTAL GAIN
Channel Strip全体のゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

❹ レベルメーター
Channel Stripの出力レベルを表示します。

コンプレッサー

❺ ATTACK
コンプレッサーのアタックタイムを調節します。
範囲：0.092 msec ～ 80.00 msec

❻ RELEASE
コンプレッサーのリリースタイムを調節します。
範囲：9.3 msec ～ 999.0 msec

❼ RATIO
コンプレッサーのレシオを調節します。
範囲：1.00 ～ ∞

❽ KNEE
コンプレッサーのニーのタイプを選びます。

ニータイプ	説明
SOFT	自然に音量が変化します。
MEDIUM	SOFTとHARDの中間です。
HARD	はっきりと音量が変化します。

❾ SIDE CHAIN Q
サイドチェーンフィルターのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

❿ SIDE CHAIN F
サイドチェーンフィルターの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

⓫ SIDE CHAIN G
サイドチェーンフィルターのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

⓬ COMPRESSORオン/オフ
コンプレッサーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

⓭ コンプレッサーカーブ
コンプレッサーの特性を表示するグラフです。縦軸は出力信号レベル、横軸は入力信号レベルです。

⓮ ゲインリダクションメーター
コンプレッサーのゲインリダクション量を表示します。

⓯ DRIVE
コンプレッサーのかかり具合を調節します。値を大きくするほど、かかり具合が強くなります。
範囲：0.00 ～ 10.00

イコライザー

⓰ イコライザーカーブ
3バンドイコライザーの特性を表示するグラフです。縦軸はゲインの増減量、横軸は周波数です。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、LOW、MID、HIGHを調節できます。

⓱ LOW F
ローバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 1.00 kHz

⓲ LOW G
ローバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

⓳ MID Q
ミドルバンドのQを調節します。
範囲：0.50 ～ 16.00

⓴ MID F
ミドルバンドの中心周波数を調節します。
範囲：20.0 Hz ～ 20.0 kHz

㉑ MID G
ミドルバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

㉒ HIGH F
ハイバンドの中心周波数を調節します。
範囲：500.0 Hz ～ 20.0 kHz

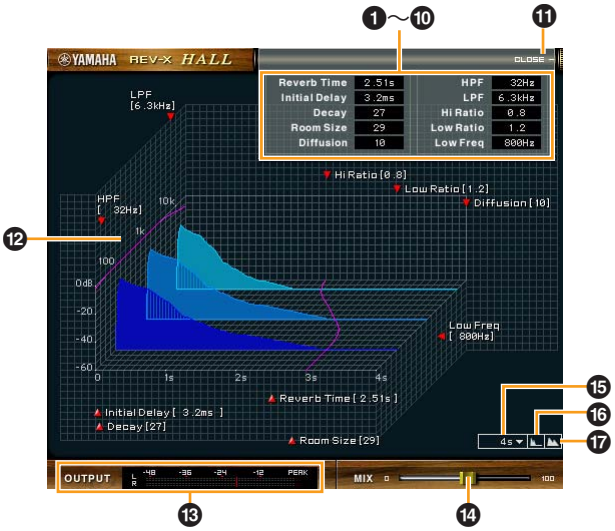
㉓ HIGH G
ハイバンドのゲインを調節します。
範囲：-18.0 dB ～ +18.0 dB

㉔ EQUALIZERオン/オフ
イコライザーをオン(点灯)/オフ(消灯)します。

REV-X

概要
REV-Xとは、ヤマハがプロオーディオ機器用に開発したデジタルリバーブエフェクトです。REV-Xには、Hall、Room、Plateの3つのタイプがあります。

名前と機能



ここでは、Hallタイプを例に説明します。

❶ Reverb Time
残響の長さを調節します。Room Sizeと連動します。REV-Xタイプによって調節範囲が異なります。

REV-Xタイプ	範囲
Hall	0.103 sec ～ 31.0 sec
Room	0.152 sec ～ 45.3 sec
Plate	0.176 sec ～ 52.0 sec

❷ Initial Delay
残響がかかりはじめるまでの時間を調節します。
範囲：0.1 msec ～ 200.0 msec

❸ Decay
残響が鳴りはじめてから消えるまでの特性を調節します。
範囲：0 ～ 63

❹ Room Size
残響の空間の広さを調節します。Reverb Timeと連動します。
範囲：0 ～ 31

❺ Diffusion
残響の密度や広がりを調節します。
範囲：0 ～ 10

❻ HPF
残響の低音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：20 Hz ～ 8.0 kHz

❼ LPF
残響の高音域が減衰する周波数を調節します。
範囲：1.0 kHz ～ 20.0 kHz

❽ Hi Ratio
残響の高音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の高音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.0

❾ Low Ratio
残響の低音域の長さを、Reverb Timeとの比率で調節します。値が1.0のとき、Reverb Timeと同じ長さになります。値を小さくするほど、残響の低音域が短くなります。
範囲：0.1 ～ 1.4

❿ Low Freq
Low Ratioの周波数を調節します。
範囲：22.0 Hz ～ 18.0 kHz

⓫ OPEN/CLOSE
残響を調節する画面を開いたり、閉じたりします。

⓬ グラフ
残響の特性を表示するグラフです。縦軸が信号レベル、横軸が時間、斜め軸が周波数を表わしています。グラフの中のハンドルをマウスでドラッグすると、残響の特性を調節できます。

⓭ OUTPUT
REV-Xの出力レベルを表示します。

⓮ MIX
原音と残響音の、出力レベルのバランスを調節します。
範囲：0% ～ 100%

⓯ 時間軸設定
グラフの時間(横軸)の表示範囲を切り替えます。
表示範囲：500 msec ～ 50 sec

⓰ ズームアウト
グラフの時間軸(横軸)の表示をズームアウトします。

⓱ ズームイン
グラフの時間軸(横軸)の表示をズームインします。

HINT
- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[Ctrl]/[command]キーを押しながらクリックすると、初期値に戻すことができます。
- 各ソフトウェアの一部のノブやスライダー /フェーダーは、[SHIFT]キーを押しながらドラッグすると、値を細かく増減できます。

Guitar Amp Classics

概要

Guitar Amp Classicsとは、ヤマハがモデリング技術を駆使して開発したギターアンプシミュレーターです。
サウンドキャラクター別に4種類のアンプタイプがあります。

ただし、サンプリング周波数が176.4 kHzまたは192 kHzの場合、Guitar Amp Classicsは使用できません。

名前と機能

CLEAN

主にクリーントーンで使うアンプタイプです。トランジスタアンプ特有の、ハリのあるキラキラしたサウンドをエミュレートしています。マルチエフェクターなどを掛け録りするときなどに、非常に使いやすいサウンドキャラクターを持っています。また、アンプ独自のコーラスとビブラートが用意されています。

❶ VOLUME
入力レベルを調節します。

❷ DISTORTION
歪み量を調節します。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS
それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE
高音域の倍音を強調します。

❺ Cho/OFF/Vib
エフェクトのオン/オフを切り替えます。[Cho]に合わせるとコーラスが、[Vib]に合わせるとビブラートが、それぞれオンになります。

❻ SPEED/DEPTH
Vib(ビブラート)がオンのときに、音の揺らぎのスピードと深さを調節します。
Cho(コーラス)がオンのときとエフェクトがオフのときは機能しません。

❼ BLEND
原音とエフェクト音のバランスを調節します。

❽ OUTPUT
最終的な出力レベルを調節します。

CRUNCH

軽く歪んだクランチサウンドで使うアンプタイプです。ブルースやロック、ソウル、R&Bなどでよく使われるビンテージタイプのチューブアンプのようなサウンドをエミュレートしています。

❶ Normal/Bright

サウンドキャラクターを切り替えます。[Bright]に合わせると、高音域の倍音が強調されます。

❷ GAIN

プリアンプ部への入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❹ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❺ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

DRIVE

主にディストーションサウンドで使用するアンプタイプです。高出力なハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。軽く歪んだクランチサウンドから、ハードロック/ヘビーメタル/ハードコアなどでよく使われる強力なディストーションサウンドまで、幅広い音づくりができます。

❶ AMP TYPE

6種類のタイプから選びます。
1と2は、歪み成分がほかのタイプよりも少なめで、ピッキングのタッチが生々しく表現されるタイプ、3と4は倍音に厚みがあり、太くて柔らかいフィーリングを持つタイプ、5と6はタイトなアタック感と荒々しさを持つアグレッシブなタイプとなっています。また、偶数番号のタイプは、奇数番号のタイプに比べてプレゼンスのレンジが広くなっています。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

LEAD

主にリードギターで使用するアンプタイプです。倍音の豊かなハイゲインチューブアンプをエミュレートしています。音抜けのよいリードや、シャープなバッキングに合った音づくりができます。

❶ High/Low

アンプの出力タイプを選びます。[High]を選ぶとより高出力なアンプタイプになり、より歪み成分の多い音づくりができます。

❷ GAIN

プリアンプ部の入力レベルを調節します。右にまわすほど歪み量が大きくなります。

❸ MASTER

プリアンプ部の出力レベルを調節します。

❹ TREBLE/MIDDLE/BASS

それぞれ、高音域/中音域/低音域のレベルを調節します。

❺ PRESENCE

高音域の倍音を強調します。

❻ OUTPUT

最終的な出力レベルを調節します。

HINT

GAIN/MASTER/OUTPUTの役割について

DRIVEとLEADは、GAIN/MASTER/OUTPUTの組み合わせで音づくりをします。GAINはプリアンプ部の入力レベルを調節するので、歪み量が変わります。MASTERはプリアンプ部からパワーアンプ部への出力レベルの調整です。GAINとMASTERは、ギターアンプの音質に影響が大きく、パワーアンプを十分にドライブした音にするには、MASTERも大きめに設定しなければなりません。そこで、エフェクトの最終的な音量を調節するOUTPUTを用意しています。OUTPUTで最終的な音量を調節することで、歪み具合などの音質に影響なくギターの音量を調節できます。

Manual Development Group
© 2013 Yamaha Corporation
2018年2月 改訂 MW-C0